

子どもにおける痛み（病気）についての表現方法 「子ども版日本語日常会話コーパス」からのオノマトペ使用状況

浅野 恵子（順天堂大学医学部一般教育外国語）[†]

Expressions used by children to describe pain (illness) Use of Onomatopoeia in the Japanese Everyday Conversation Corpus for Children (CEJC-Child)

Keiko Asano (Foreign Language Division, the Faculty of Medicine, Juntendo University)

要旨

本研究は、「子ども版日本語日常会話コーパス（モニター版）（CEJC-Child）」を用いて、乳幼児から小学生までの自然発話におけるオノマトペの使用実態、特に痛みの表現に焦点を当てて、発話分析ツールを用いて明らかにする。分析対象は、同コーパスに収録された日常会話データであり、オノマトペの初発月齢、出現頻度、種類（擬音語・擬態語）、使用状況および機能に注目して定量・定性両面から検討を行った。オノマトペ研究にはすでに膨大な蓄積があるが、今回において、子どもの日常会話での遊びや食事など、身体的活動を伴う場面での、リアルタイムの発話使用を映像と音声から分析する機会を得ることはまれである。その中で、子どもは痛み（病気）について、どのような会話をして、表現をしているかを対象として、子どもの言語発達におけるオノマトペの機能的意義を考察する。

1. 背景

「痛み」とは、いつの時代でも、万人共通の悩みである。対象となる症状、身体部位、頻度、およびその度合いは異なろうとも、誰もがその苦痛を取り除けることを懇願する。

医療現場において、痛みの度合いを表現する方法には、言語以外に指標を明確化するために以下のような尺度が用いられている。視覚的アナログ（VAS）、数値的評価（NRS）、表情尺度（FRS）スケール等が、日本ペインクリニック学会 HP に記載されている。ある一定の年齢に達すれば、それらの痛みは言語化して表現することは可能である。痛みをことばにして表現する場合においては、日本語ではオノマトペ表現を使用することが多い。これは日本語が他言語に比べてオノマトペの種類が豊富であるという特徴があるためと考えられる。痛みを表すオノマトペ（「ヒリヒリ」、「ピリピリ」等）を使うことで、約 8 割の患者が自分の痛みを理解してもらえたという先行研究がある（竹田・小川、2015）。また、それら痛みを表すオノマトペにおいて音声的特徴により表現に違いがあるかを分析した研究もある（横山・浅野、2024）。

しかしながら、子供（幼児）の場合は、自分の状態を表現すること自体が困難である。成人が表現するような痛みオノマトペを使っているか、また、他の方法で痛み（病気）をあらわしているか、使用開始月齢時期や表現内容を体系的に調べることは、倫理上問題があり、また、データなどが従来存在しなかったため研究が進んでいなかった。病院における診察とは別に、日常会話の中でどのように痛みについての会話がされて、表現されているかの分析は少ない。

[†] keasano@juntendo.ac.jp

2. 研究の目的

この研究の目的は、国立国語研究所発行の『子ども版日本語日常会話コーパス』の使用権利を譲渡されたので、従来、子どもを中心とする多様な日常生活の場面の会話を分析することが困難であった面を、音声とその録音画像と共に分析することにある。子どもの他者との遊びや食事などの日常会話を通して、身体的活動を伴う場面でのリアルタイムの発話使用時に、特に①痛みに関連する表現はどのようなものがあるか、②痛みの表現オノマトペを子供はいつから使用しているか、③その種類、④痛みの表現はオノマトペ以外に使用しているか、⑤会話中に痛みに関するどのような話題がされているか、を観察することが目的である。

最終的目的は、日常会話から痛み（病気）の表現を知ること、言葉ではうまく表現できない状態や症状を察することへの指標となるような情報を集積することであり、さらに、小児科医師に、子どもの痛みの表現方法を提示することで、診察技法の手がかりとなる情報を提供できるようにしたいというものである。

3. コーパスと分析方法

3. 1 「子ども版日本語日常会話コーパス（モニター版）（CEJC-Child）」

本研究は、「子ども版日本語日常会話コーパス（モニター版）（CEJC-Child）」を使用する。国立国語研究所「多世代会話コーパス」において、100 時間規模の子どもを中心とする日常会話を収めた『子ども版日本語日常会話コーパス』（CEJC-Child）構築過程で、2026 年度に本公開が予定されている。2025 年 3 月に 50 時間分のデータがモニター版として公開された。以下が、公開されている中から、今回対象となる、調査対象者の世帯情報及び調査期間とモニター収録期間を抽出した。モニター版では兄弟及び月齢の比較的上の収録も含まれているが、調査対象年齢に統一性を持たせるために、月齢の近い年齢及び期間のみを分析対象とした。

表 1 調査対象者の世帯情報及び調査期間とモニター収録期間

ID	性別	同居家族	モニター版収録月齢	モニター版収録終了時期	モニター版収録期間
Y001	女	父・母	2歳6ヶ月～4歳11ヶ月	2021年11月	29ヶ月
Y005	女	父・母	1歳7ヶ月～3歳6ヶ月	2021年12月	22ヶ月
Y006	女	父・母・姉・兄	1歳6ヶ月～3歳0ヶ月	2021年7月	18ヶ月
Y009	女	父・母・兄	1歳2ヶ月～2歳6ヶ月	2021年10月	16ヶ月
Y009	男	父・母・妹	4歳2ヵ月～5歳6ヵ月	2021年10月	16ヶ月
Y010	男	父・母・弟	3歳8ヶ月～4歳10ヶ月	2021年11月	13ヶ月

3. 2 会話分析：Toitta

本調査を行うにあたり、膨大な収録映像（約 50 時間）とその音声から、痛み（病気）の表現を抽出するために会話分析ソフトを用いた（関連 URL を参照）。これは、映像から AI による書き起こしが話者ごとに行われ、共通する会話の内容ごとにトピックを設定するシステムである。さらに、動画や音声と連動する画面表示で、前後の文脈や会話のニュアンスを瞬時に確認でき、話者を特定して、どの会中に対象の話をしていたかが、抽出できるようになっている。書き起こしデータの文脈をもとに、クロスレポート機能により、各会話中に「病気の話をしているか」、「痛みの話をしているか」、「それらの内容で擬態語・擬音語を使っているか」という質問を設定し、抽出した。また、AI が切片を自動的にグルーピングし、ターゲットとなっている今回の痛み（病気）の表現方法を、調査対象者の通時的情報を分析するための補助機能の一端とした。しかしながら、あくまでも分析の指標としてとらえ、随時、原版のデータおよび資料と照らし合わせながら、精度を確認した。

3. 3 調査対象者

調査対象者は以下の表に示している。上記にも記載した通り、対象児月齢の統一性を持たせるためにおおよそ同じ年齢を観察している。モニター版には乳幼児や5歳以上の年齢の子供がいるが、今回の調査には含めていない。理由の一つに乳幼児の方はまだ、言語で痛みを表現までには至っていないことが、見て取れたためである。また、5歳児以上の言語活動は、より成人に近い要素を持っているので、別途、分析を試みることにした。

表2は、痛み（病気）についての会話が行われた回数と調査対象者のその時点での年齢を示している。

表2 痛み（病気）についての会話が生じた回数と対象者の年齢

収録月齢	収録期間	対象者ID	性別	痛み（病気）についての会話が生じた回数と対象者の年齢										録画会話数
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
2歳6ヵ月～4歳11ヵ月	29ヵ月	Y001	F	2歳6ヵ月	2歳8ヵ月	2歳8ヵ月	2歳10ヵ月	3歳8ヵ月	4歳3ヵ月	4歳5ヵ月				86
1歳7ヵ月～3歳6ヵ月	22ヵ月	Y005	F	1歳7ヵ月	1歳10ヵ月*	1歳11ヵ月*	2歳1ヵ月*	2歳2ヵ月*	2歳6ヵ月*	2歳7ヵ月	3歳0ヵ月*	3歳6ヵ月	3歳6ヵ月*	20
1歳6ヵ月～3歳0ヵ月	18ヵ月	Y006	F	2歳3ヵ月*	2歳4ヵ月	2歳10ヵ月*								20
0歳9ヵ月～2歳1ヵ月	16ヵ月	Y008	M	1歳0ヵ月*	1歳4ヵ月*	1歳5ヵ月*	1歳7ヵ月*	2歳1ヵ月*						14
1歳2ヵ月～2歳6ヵ月	16ヵ月	Y009a	F	1歳5ヵ月	1歳8ヵ月	1歳8ヵ月			2歳2ヵ月	2歳5ヵ月	2歳6ヵ月			34
4歳2ヵ月～5歳6ヵ月	16ヵ月	Y009b	M		4歳8ヵ月	4歳8ヵ月	4歳9ヵ月	5歳2ヵ月	5歳2ヵ月					34
3歳8ヵ月～4歳10ヵ月	13ヵ月	Y010	M	3歳8ヵ月	3歳8ヵ月	4歳0ヵ月*	4歳1ヵ月*	4歳1ヵ月*						31

表中の横軸数字①，②などは対象内容の会話が生じた数を通時的に月齢と共に示している。また、最後の「録画会話数」とは各対象者の会話が録音された総数を示しており、例えば、「86回の録音回数の中、⑦回」など、対象会話が何回出現数を横軸数字で示している。

各調査対象者の会話映像と音声すべてを確認し、その会話の中でさらに、痛み（病気）に関する話の話題とみなされた部分を抜き出し分析対象とした。今回、特に対象児本人が痛みを訴える方法を中心に分析はしているが、自然会話の中で、痛み（病気）の話を対象者以外に行っている部分も会話から抽出し、その時に対象児がどのような反応をしているかも観察した。＊は調査対象者自身の発話ではなく、その家族が発している会話中の内容となる。なお、収録に用いた録音および録画機材などの詳細説明については、ここでは割愛する。

会話中に出現する「痛い」、「痛み」をキーワードに全映像を確認した。その際に、痛みに関連した話題を抽出して各家族IDの対象者ごとにまとめた。

4. 結果

表2にある調査対象者ごとに会話の内容を観察し、提示する。今回は＊のついている会話は調査対象者以外が痛みについて話しているため、分析対象からは除くことにする。表3に、各対象者の会話について、具体的な内容を示している。会話の概略、そこで出てくる痛み（病気）の内容、それらを表現方法、および特筆すべき点を記載している。付録に表現方法で明確に画像で表示できるものが含まれている会話について映像から示している。また、一部焦点となっている会話のやり取りも掲載する。

表 3 各調査対象者の会話における具体的な内容

被験者ID	会話IDと番号	会話の概略	痛み（病気）の内容	表現方法	特筆すべき内容
Y001	001①	母親とのパズル遊び中、足の指が痛くなる。その場所を指して、手当てを求める	痛みと言いながら痒	ぬりぬりする	おうちマキロンと言ってその部分の手当てを求める。何度もおうちマキロンという。
	007②	母親と外食中に母が帽子を取るときに目にぶつかり、母が謝る	痛いと言いながら泣く	泣く	母が何度もぶつかったことを謝ると大丈夫と言う
	007③	母親と外食中に足が痛いと言い出す。薬を塗ってもらう	痛いと言いながら痒い。	痒いと痛いのが混同	お薬を塗ってもらい、安堵の顔をする。母親は、ぬりぬり、びっぴと塗っている時にオノマトペを使う。
	014④	父親とストレッチ遊びをして父が足を開脚して痛がる。	他人の痛みには無視		何度も痛みを父親が言うが、気にしない。
	065⑤	知り合いのお姉さんの痛みについて話す。床に縮こまると痛い、椅子のクッションがあると方が痛くないと言う。	他人の痛みについて話す。	痛みを軽減する方法について語る。	自分以外の人の痛みについて語る
	073⑥	セロハンテープによる仮想のネックレスを母にしてあげる	母の首の痛さについて様子を聞く	ちょっと痛い？お首がぎゅっとなる	きつく締めたら痛いか他人の痛みを配慮している。
	075⑦	母との遊びの最中、掻き始めるが、嘘で掻いているという	痒み	ぼりぼり、かきかき	架空の話として提示する。うそっこでぼりぼり掻いている。両腕をそれぞれ見せる
Y005	004①	友達に羽交い絞めされて後ろに倒れる。	打撲	大泣き	
	015⑦	祖父に高い高いをしてもらい降ろしたときに足にブロックがぶつかり痛がる	物がぶつかり痛い	大泣き	
	020⑨	食事中に最後まで食べなさいと言われ、食べたくないの、急に首が痛いと言い出す。	首の痛み	痛い、首を手で示す。	食事を最後まで食べたくないことから逃れるために痛みを持ち出している様子。
Y006	013②	姉に両手がについて訴える	必ずしも痛くはないが違和感	赤い色で表現ぐづる	姉が大丈夫となだめる
Y009a	009①	痒みでいろいろな薬の話をしていおり、塗ってもらう	やけど、かゆみ	何も言わない	色々な薬の名前が出てくる。ムヒ、ドルマイシン軟膏、キンカン、ウナクール、貼り薬
Y009a,b	009②	父親と3人でカードで遊んでいて、子供2名がぶつかる。	痛みと言いながら痒いている	痛いという	痛いことはしないようにと父親が諭すと、キスをして仲直りする。
Y009a,b	018③	母親と3人で遊んでいるときにたたき合いのけんかをする	手でたたき、足でける	痛いという	叩いたらだめだと母が諭す
Y009b	020④	夢の続きを母から聞きたいと言われ、物語を話し始める	髪の毛を触ったら、手が痛くなって手から血(W ガガ)が出たとき。	手が痛く、血が出る（物語中）	夢の物語の中で痛みを語る。どうやら「血が」で、1つの単語としてとらえているようだ
Y009b	026⑤	母は長男に魚釣りの針は痛いし、触ると血が出ると言う	想定の話をしている	血が出て痛い	痛い場面を母が教える
Y009a,b	027⑥	妹が架空で自分の甲に落書きをして、そこが痛いということにする。それに対して兄が絆創膏（星型のシール）を持ってきてその箇所に貼り手当てをする。	架空の痛み、怪我	怪我して痛いので絆創膏を貼るように要求する	いわゆる、「ごっこ」を楽しんでいる。兄が絆創膏を取りに行っているときには笑っている。後から兄に手当てをしてくれたお礼を言う。
Y009a	031⑦	突然、母に携帯らしきものを持っている手が痛いという	手の突然の痛み	痛いという	母がそれに対して痛いか、と返答する
Y009a	034⑧	架空で妹が母に痒いか聞き、足に救急車のミニカーをこすりつけて手当てする。カブトムシ（模型）が痛くてひっくり返っているところに、ミニカーの汽車（救急車代わり）が来て、カブトムシに絆創膏を貼ると元通りになる。カブトムシはくしゃみをして鼻が出ているとも言っている。そのあと指も痛いので、母に手当てを求める。後から救急車も痛くなり絆創膏を貼るふりをする。	母がムヒを塗る、自分はカブトムシの救急車で母の痒い所を手当てをする。今度はカブトムシの痛みは絆創膏を貼ってくれと要求する	痛いと言いが混同している。ちくっと差される。指も痛い。カブトムシに絆創膏を貼るときにベタッとやっている。	架空の救急車がカブトムシを手当てする、というごっこで相手を手当てすること楽しんでいる。カブトムシが痛いときにはひっくり返っているが、手当てして治ると、表向きになることで治ったことを示している。
Y010	001①	家族での食事での会話で今日行った場所の話をしている。川底の石が痛かった話題。ごつごつして痛かったと伝える。	足の裏の痛み	ごつごつ	大人との会話が成立している。過去の出来事を語ることができる。
	001②	家族での食事中に髪の毛にご飯粒がいついていて、父親がそれを取ろうとする。そのままにしておくと言くと痛くなると母からも言われて、取ってもらう。	髪の毛についたままにすると痛くなる。	痛がってはいない	ご飯粒を取ってもらうことを楽しんでいる様子

5. 考察

上記で表3にまとめた内容を会話の概略、そこで出てくる痛み（病気）の内容、それらの表現方法、および特筆すべき点について、見ていくことにする。

痛みの表現する際に、痛みのオノマトペの使用の有無や種類を調べることが目的であった。しかしながら、今回対象とした子供（1歳0ヶ月～5歳2ヶ月）までの小児において、ほとんど、痛みを表すオノマトペを使用していないことが判明した。痛みに関連していない今回の子どもコーパスも観察した際に、オノマトペを使えていないわけではなかったもので、純粋に、痛みを表現する時にオノマトペをこの年齢では使わないと言えよう。加藤・高橋(1972)において、「子どもは満1歳以上でと痛い部位を手でカバーしたり、指で示したり、はっきりとした表情で痛みの程度を表現したりする。2歳をすぎると、どこが、どの程度に痛むかを言葉で表現するので診察が容易となる。」と述べている。これは、病院での診察時のことであり、実際に痛い部位を指し示すことはされていたが、痛みを表す時には、泣く（大泣きする）、痛いという言葉を連呼する行為で表し、オノマトペは日常会話では観察されなかった。

今回、直接痛みを表すためではなく使用されていたオノマトペとして、薬を塗ってもらうことを「ぬりぬり(Y001:001①)」、「ぴっぴ(Y001:007③)」、「ちょんちょん(母)(Y009a:034⑧)」、搔いていることを「かきかき、ぼりぼり(母)(Y001:075①)」（足の痛み「ごっごっ(Y100:001①)」、刺されていたことを「ちくっ(Y009:034①)」と言って表現していた。

次に、痛み（病気）の内容について検討する。痛みの部位としては足・腕が多く、痒みと痛みの区別がつかず、痒いことを痛いと訴えている場合も見られた(Y001:007③)。外部から受ける痛みとして、殴打(Y009a,b:009②)、羽交い絞めにされて倒れて痛い(Y005:004①)、母の手がぶつかり痛い、もの(レゴブロック)がぶつかり痛い(Y005:015⑦)、等が観察された。これらは対象児自身に起きた痛みが、会話中に観察された内容である興味深いことに、自分に起きた痛み以外の痛みが会話の中で観察された。例えば、他人の痛みについて話をする(Y001:065⑤)、他人の痛みを気遣う(Y001:073⑥)、うそで痛いと言ったり(Y001:075⑦)、その場の状況を回避するために話題を変えるための痛み(Y005:020⑨)、夢の中での物語中の痛み(Y009:020④)、カブトムシの模型と汽車のミニカーを救急車にみたてた、痛みを手当てする「ごっこ」としてとらえている(Y009a:034⑧)などがある。痛みに対して手当てをして貰うまたは、してあげる行為なども見られ、「痛み」を通して、成長段階で大事な挨拶や行動なども学んでいくきっかけとなっているようである。

川原(2014)でも述べられているように、一概に痛いから痛みを訴えているわけではなく、心理的要因が痛みの側面には含まれている可能性が今回の観察からも判明した。「痛く」なることで、他者の気を引いたり(Y006:013②)、また逆に気をそらせたり(Y005:020⑨)、架空の痛い「ふり」をすること(Y001:075⑦)で、他者とのコミュニケーションを図る手段の一部としても使われている。

また、食卓での会話の重要性も今回の子どもコーパスから観察できた。食卓、昨日言った場所の話の聞いたり(Y010:001①)、見た夢の話の物語を伝えたり(Y009b:020④)することで、そこでも痛みの内容が含まれていた。Butler& Fitzgerald(2010)においても、海外の事例ではあるが、家族団らん時の会話に着目しており、昨今、個食が進んでいく日本において、子どもの話を聞き、子どもとの何気ない対話やだんらんの機会に様々なことを学んでいることが見て取れた。

これらの会話中に痛みとは直接関係がないが、特筆すべき内容があったので、加えて記載する。月齢が低い複数の対象児において、痛みと痒みの混同がみられた(Y001:007③、Y009a:034⑧)。架空の症状を落書きして作り出し、痛みが生じているという「ごっこ」遊びを楽しんだり、その箇所を兄に絆創膏(シール)で手当てをさせたりする(Y009a,b:027⑥)行為がみられた。また、同対象児において、カブトムシ(模型)が痛がっているという時に、カブトムシはひっくり返っているが、そこの手当てに架空の絆創膏を貼ると、痛みが

治り、その証拠をカブトムシが表向きになったことで表していた (Y009a:034⑧)。また救急車の役割をすでに十分把握して、病気の対応をすることも認識できていた (Y009a:034⑧)。

夢の中の物語で痛みについて語る際に、「血が出る」ことを「『血が』が出る」と、言い、一つの単語としてとらえていたことが、形態素的な文法項目を学習する段階であることも見られた (Y009a:020②)。それはちょうど、英語において、母音の前の不定冠詞が ‘an’ であることをまだ習得できておらず、 ‘a napple’ と発音することと類似していると言えよう。

対象児例は多くないが、今回の対象者を通時的に観察するとここにも「痛み」を通じて、他者との関係の変化も見られた。具体的に、対象児 Y001 は2歳6ヶ月から4歳5ヶ月まで痛みに関連する会話が7回観察された。2歳児までの間は、自分の痛み(痒み)を指し示し、単に痛いということだけで手当てを求めるだけであった。また、他人が痛いと言っているそのことに対しては、反応することはなかった。しかし、3歳になってからは、他者が痛いと言っていたことを思い出して、説明するようになり、さらに4歳では他者への痛みの配慮のことばをかけるようになる。また、こちらも痒みという症状を嘘として掻いているということも述べている。

6. おわりに

本研究では、国立国語研究所「子ども版日本語日常会話コーパス (CEJC-Child)」モニター版から、「痛み(病気)」についての話題がみられる会話を抽出した。痛みに関する話の内容、その痛みを対象児(家族)がどのように表しているか、特筆すべき内容も含めてを観察して分析した。

その「痛み」は必ずしも痛いことだけを訴えているのではなく、その話題の背景にさらに心理的要因を反映して使われている様子が会話映像からも観察された。

また、その「痛み」は自分の痛みだけでなく、他者の痛みへの配慮、架空の痛みを作り出しその物語を相手に伝える、その痛みに対する手当など、複雑な認知処理を発達させる手段ともなっていると言えよう。

当初、痛みの表現方法にオノマトペを使用していることを調査対象の主目的としたが、他の会話時には使っている対象児も痛みを表現するときにはほぼ使われていなかった。おそらく、今回の観察した対象児の月齢が影響しているかもしれない。しかし、他の会話ではオノマトペを使っているので、使えないわけではないことから、なぜ痛み(病気)を表す方法では使われていないのかを今後の検討課題とする。さらに月齢が高くなった時点の対象児ではオノマトペを痛み表現として使っていくのかを引き続き観察していく。

謝 辞

本研究では、国立国語研究所「子ども版日本語日常会話コーパス (CEJC-Child)」モニター版を提供していただいた。また、順天堂大学医学部一般教育共同研究助成金「子どもはいつから痛みを表すオノマトペを使い始めるか。—国立国語研究所：「子ども版日常会話コーパス」からの分析—」に採択され、補助を受けたものである。

文 献

- 竹田晃子・小川節郎 (2015). 慢性痛保有者における痛みのオノマトペ『ペインクリニック』, 36 (6) , 783-792.
- 日本ペインクリニック学会 HP, https://www.jspc.gr.jp/igakusei/igakusei_hyouka.html
- 小野 正弘 (2007). 『日本語オノマトペ辞典』, 小学館.
- 浅野 鶴子 (編), (1978). 『擬音語・擬態語辞典』, 角川書店.
- 楠見孝, 中本 敬子, 子安 増生 (2010). 痛みの比喻表現の身体感覚と認知の構造『心理学研究』, 80 (6), 467-475.

- 荻阪 直行 (2001). 「ことばと感覚--擬音語・擬態語からみるクオリアの探究 (特集 楽しいオノマトペの世界--擬音語・擬態語の質感を味わう)」『言語』, 大修館, 70-77.
- 横山安紀子・浅野恵子 (2024). 痛みを表すオノマトペ表現とその音声特徴—アンケート調査を基にした認識分析— 日本音響学会第 152 回 2024 秋季研究発表論文集 999-1000.
- 加藤 英夫, 高橋 系一 (1972). 小児の痛みの発達とその臨床 順天堂医学 18 巻 3 号 373-379.
- 川原律子 (2014). 小児の"困った痛み"の心理学的検討: 人型を用いた痛みの描画表現 (ワークショップ: 日常診療における"困った痛み"をどう考える?-心理士のための難治性疼痛の理解-, 日本身心医学会 54, 212-214.
- Jenkins, J., & Hepburn, A. (2015). Children's sensations as interactional phenomena: A conversation analysis of children's expressions of pain and discomfort, ISSN:1478-0887 (Print) 1478-0895 (Online) Journal homepage: <http://www.tandfonline.com/loi/uqrp20>
- Franck, L. G., & Noble, Lioffi, C. (2010). From tears to words: the development of language to express pain in young children with everyday minor illnesses and injuries. Child: Care, Health and Development Volume 36, Issue 4 pp. 524-533.
- Butler, C. W., & Fitzgerald, R. (2010). 'Membership-in-action: operative identities in a family meal', Journal of Pragmatics, vol. 42, pp. 2462-74.
- Doorbar, P., & McClarey, M. (1999). Ouch! Sort it out. Report of a qualitative study of children's experiences of pain, in Clinical practice guidelines: Royal College of Nursing Institute and Action for Sick Children, RCN Publication Code 001 113, London, UK.

関連 URL

- 子ども版日本語日常会話コーパス (CEJC-Child) <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc-childM.html>
- Toitta (会話分析ソフト) <https://ja.toitta.com/>

付 録

実際の会話書き起こし部分と一部映像を抜き出したものを掲載する (Y009a,034⑧)。名前は架空のものである。

- 003_あやね ううん。
- 002_母 うん?。
- 003_あやね ぎやおー。
- 002_母 痛:い 痛い 痛い。
- 003_あやね がうがう がうがう。
- 002_母 痛い 痛い 痛い 痛い 痛い。
- 003_あやね (U おいしい)。
- 003_あやね おいしい。
- 002_母 いてて。
- 003_あやね しっ。
- 002_母 しっ。
- 003_あやね ちくっ。
- 002_母 ちくっ か。
- 002_母 痛い。

003_あやね	痛い?。
002_母	痛い。
003_あやね	(W アユイ 痒い)?。
002_母	痒い。
003_あやね	(W アユイ 痒い)?。
002_母	痒いな:。
003_あやね	えーん。
003_あやね	(L)
002_母	(L)
003_あやね	え。
003_あやね	(X ###)。
003_あやね	(X ###)。
002_母	おいしょ。
002_母	うん?。
003_あやね	ママ (W アユイ 痒い)?。
002_母	痒いよ:。
003_あやね	(W アユイ 痒い)の?。
002_母	痒いな:。
002_母	どうしよう?。
003_あやね	(W アユイ 痒い)の?。
002_母	うん。
003_あやね	しゅ しゅ しゅ しゅ しゅ。
002_母	あ。
003_あやね	しゅ しゅ しゅ。
002_母	なんか塗ってくれてるの?。
003_あやね	うん。
002_母	ありがとう。
003_あやね	(L)
002_母	(L)
002_母	ムヒだね。
002_母	ここが痒い。
003_あやね	こ%こ:が:?
002_母	うん。
003_あやね	しゅっしゅっしゅっしゅー。
002_母	うん うん。
003_あやね	痛。
002_母	(M(X イタ))?

003_あやね 痛いよ:。
002_母 痛い 痛いか。
002_母 どうしたんだろう。
003_あやね うん。
002_母 怪我しちやったのかな?。
003_あやね うん。
003_あやね 痛い 痛い。
002_母 痛い 痛い?。
003_あやね (W シュウシュウ|救急)車で:ちゅ。
002_母 救急車ですか?。
003_あやね うん。
002_母 うん うん。
002_母 治してください。
003_あやね はい。
003_あやね いしよ。
003_あやね いしよ。
003_あやね べたっ。
002_母 あ。
002_母 治った?。
003_あやね うん。
002_母 絆創膏したの?。
003_あやね うん。
002_母 やったー。
003_あやね いたた。
002_母 いたた。
002_母 また怪我しちやったの?。
003_あやね うん。
003_あやね うーん。
002_母 今度はどうしたの?。
003_あやね (W ウビー|指)。
002_母 指が?。
003_あやね うーん。
002_母 指痛いの?。
003_あやね うーん。
002_母 そっか。
002_母 どうしよう。
003_あやね ここ痛いの。

002_母	痛いのか。
002_母	どうしようか?。
003_あやね	うん。
002_母	絆創膏(D ス)。
002_母	お薬塗る?。
003_あやね	うん。
002_母	うん。
002_母	お薬塗りましょう。
003_あやね	ちっくん ちょんちょーん。
003_あやね	オッケ:イ。
002_母	オッケー?。
002_母	元気になった?。
003_あやね	うん。
002_母	やったー。
003_あやね	(W アシュン くしゅん)。
002_母	はくしゅん?。
003_あやね	(W アシュン くしゅん)。
003_あやね	(W アナ 鼻)(W ン 出)た:。
002_母	鼻出た?。
003_あやね	うん。
002_母	(L)
002_母	(L (W フッ そう)か)。
002_母	あら。
002_母	どうしよう?。
002_母	ティッシュで(0.106)お鼻拭いてあげよう か。
002_母	ティッシュあるかな?。
003_あやね	見て 見て:。
002_母	拭き拭き。
003_あやね	オッケ:イ。
002_母	オッケ:イ。
002_母	風邪治った?。
003_あやね	うん。
002_母	やったー。
003_あやね	ちく。
003_あやね	痛:。
002_母	痛。

002_母 今度は角がやられた。
003_あやね 痛いよ:。
002_母 痛いの?。
003_あやね うん。
002_母 どうしちゃったの?。
003_あやね ここ痛いの。
002_母 ここ痛いのか。
003_あやね うーん。
002_母 怪我しちゃったの?。
003_あやね うん。
003_あやね 痛いよ: 痛いよ:。
002_母 え。
002_母 こっちも痛いの?。
003_あやね うん。
002_母 どうしたの?。
002_母 じゃ (R あや)ちゃんが治してあげて。
003_あやね うん。
002_母 (L)
003_あやね ペた。
002_母 ペた。
002_母 (W バンソ|絆創)(W コ|膏) ペた。
003_あやね ペた。
003_あやね あ。
002_母 そこは?。
003_あやね ペた。
002_母 ペた ペた。
002_母 あ。
002_母 (U 痛い)。
003_あやね 痛。
002_母 ペた。
003_あやね 痛。
002_母 痛いの?。
002_母 また 痛いの?。
003_あやね ん。
003_あやね うーん。
002_母 今度はどこが痛いの?。
003_あやね うんと: 足:。

002_母 足が痛いのか。
 003_あやね うーん。
 002_母 あら。
 002_母 どうしよう。
 003_あやね てへへ。
 002_母 へへへ。
 003_あやね 痛いよ:。
 002_母 痛いか 痛いか:。
 003_あやね うん。
 002_母 お薬塗ってあげよう。
 003_あやね うん。
 002_母 (T お薬あるかな)。
 002_母 うーん。
 003_あやね (X ニヤ)。
 003_あやね (W オコ|ここ)(W オーコ|どこ)?。

Y009a:034⑧母の痒い所とカブトムシが痛いところを、救急車（汽車のミニカー）が来て、手当てをする。

